



正法寺新聞

貴いと
なす
和を以つて
どうど

聖徳太子

2024.1
23号
正法寺発行



料理研究家の土井善晴さんによると、和食に「混ぜる」はなく、「和(あ)える」のだそう。それぞれを混ぜ合わせ新しい何かを作るのではなく、それぞれの違いを尊重し自然な調和を作る。「混ざらないようにするために小さな器が発達したのかな?」とテーブルを眺めながらいただきました。



スタンプカードに
記録しながら
楽しく参加ができ
ます。



混ぜる



いける



磨く



毎月28日の13:30から15:30まで
正法寺本堂にて開催中の月一報恩講
「行いがわたしを導く時間」。今年も3月
にスタートします! 12月の帰敬式を受
式されたい方はぜひご参加ください。

お線香作りに初挑戦!

しんらん聖人へ命日のつどい

INOBOS SHINSANSENSENSEI-HINAZO-OHISHIBI

行いが

わたしを

導く時間

報恩の心に学ぶ
自分との向き合い方



正法寺

月一報恩講『行いがわたしを導く時間』にて、お線香を手作りました。まずは、住職がお香の歴史をお話し、代表的な沈香の香りを実際に確かめた後、各自さまざまなお香を調合して、大きな注射器に移し棒状に押し出しました。使用は乾燥後になるので各自自宅に持ち帰られました。



お線香に調合する香木の種類は、代表的な沈香・白檀のほかにも、「安息香・かっ香・山奈・桂皮・丁子」などなどたくさんあります。とても一回では把握できません…。

リビングなどでも
使ってみてください



完成品。形や長さがまばらですが、自分で調合して作った香りがどうなったか、焚くのが楽しみだにゃー。



あともう少して
完成!!



まずは、自分の
身体で香りを
確かめます。



住職によるお香の歴史についての話。もともとは貴族や武士のものでしたが、今は誰でも簡単に使える様に。しかも棒状にする製法は、まず長崎に伝わったようです!!



住職に聞いたり、調合表を見たりしながらお香の粉を調合し、スプーンと自分の手を使って「まぜまぜ」しました。←出来上がった練り香を注射器で棒状にして完成!!



帰敬式は本堂で執行します。まずは受付をして、肩衣をかけます。南無船会のみなさんがサポートしてくださいます!



剃刀の儀(おかみそり)。
住職がおひとりおひとりにか
みそりを頭にあてる形
で行います。



法名伝達。ひとつずつ前に出て、住職
より受け取ります



正法寺で帰敬式 執行しました

令和五年 十二月五日 十三時半より

今年も司会は
坂口町の今里さん



「誓いの辞」は、
片町の為永さんが
代表で読まれました。



受式者には、本山より肩衣・
赤本・真宗門徒の生活・バッ
グが贈られます。



「正法寺で帰敬式」

- ①開式の辞
- ②真宗宗歌齊唱
- ③三帰依文唱和
- ④剃刀の儀
- ⑤執行の辞
- ⑥法名伝達
- ⑦誓いの辞
- ⑧法話
- ⑨恩徳讃齊唱

※今年も12月5日に帰敬式執行の予定です。まずは、「行いがわたしを導く時間」に通じて準備するのもおすすめです。



昨年12月5日の報恩講法要初日、「正法寺で帰敬式」を執行いたしました。「法名」を受けられ、仏弟子としての歩みを始められること、大変うれしく思います。7名の方が受式されました。今年は見学の方もおられたので、今後も見学可として参ります。毎年執行しますので、ご希望の方はぜひ今年12月に受式しましょう。

洗心会活動報告

昨年は二ヶ寺のお寺の女性部が

来寺されました！



昨年も、敬老会を実施しました！

（年々参加者が減っております…。）



正法寺の説明をした後、念珠作りをし、ゆでピーナツを紹介！！



12月14日(木)
坊守実家、願正寺より
23名の方が来寺。



10月5日(木)
愛野の光西寺より
16名の方が来寺。



正法寺の説明をした後、
仏教讃歌齊唱と、
座談をしました！



願正寺報恩講へ参詣しました

十ー月十八日(土)坊
守さんの実家願正寺
(八女郡)の報恩講へ、
役員さん方とお参りい
たしました。ご講師は、
正法寺にもご縁ある
青木玲先生。こちら
の本堂は数年後に改
築予定だそうです。



願正寺さんのお斎も、
パック詰めに。新型コロナの影響で
いろんなことが変化しました。



十月十五日(日)に、今年
も敬老会を二十六名の参
加で開催することができます。
年々参加者が減っています。



年齢の制限はなく、
みなさん一緒に祝いしています。ぜひ
今年もご参加ください。ご講師は、
ハ女の淨慈寺より、島村宣澄先生をお
招きしております。



グリーフケアの視点から④ ~坊守発信~

グリーフケアの視点から4回目の発信です。

《グリーフとは大切な人、ものなどを失うことによって生じる
その人なりの反応、プロセスのこと》

新型コロナウイルスの影響で、葬儀や法事の形に変化が進みました。簡略化をのぞまなくともそうなる場合もあるようです。何かご心配なことがあればお寺にご相談ください。新型コロナウイルスの有無に関係なく、身近な方とのお別れというのは人生の中でも非常に大事な時間です。葬儀から49日までの時間を過ごす中で、亡き人との出会い直しができ、そしてゆっくりとお別れができます。ぜひその時間を大切にしていただきたいと思います。

人は喪失体験をした時、心理的・身体的・社会的など多方面に影響がでます。今回はスピリチュアル的な面でのご紹介をします。

スピリチュアル的影响

【生きている意味の喪失や模索。神や仏など信仰への疑問や不信。「なぜ」という問い合わせ】

喪失を経験すると、悲しみだけがおこるのか?というではありません。上記にあるように、様々なスピリチュアル的な面でもそれ以前にはなかった感情や疑問が湧いてくることがあります。なぜこんなことが自分に?というそれまでにないような問い合わせもあるでしょう。そういう混乱は誰にでもおこる自然なことです。まずはそのことを否定せずゆっくりと受け止めながら、あせらずに過ごしていきましょう。何かのきっかけが欲しい場合は、お寺には死別を経験した方がたくさん来られているので、そういう方との出会いもいいかもしれません。まずは「おそうじの日」からの参加もおすすめです。

次回はグリーフのプロセスについてご紹介します。

参考図書「大切な人を亡くしたあなたへ」⇒



これも仏教用語?!

普段から使っている言葉には、
仏教由来の言葉が実はたくさん。
そんな言葉を紹介します。今回の言葉は、

「正念場（しょうねんば）」

普段の会話で、「ここが正念場だ」などと使います。辞書には「歌舞伎等で、主人公がその役の性根（しょうこん）を發揮させる最も重要な場面」、また「ここぞという大事な場面・局面」などとあります。仏教語としての「正念」には、「信心の正しくさだまること」などの意味があります。さて自分にとつて、人生の「正念場」はどこにあるのでしょうか。そう問われると、この人生こそが、この世に生まれたことの意味を問う、一回限りの「正念場」だと教えられます。

「正念場」と言うと、人生のどこかに大事な決断の場面があるように思われるがちですが、そうではないようです。奇跡的に、この世に生まれた「人生全体」の意味を問うことこそが、仏法における「正念場」です。

人類は、人生の終点を知つてしましました。それは「死」です。「死」をもつて終わる人生に意味があるのでしょうか。そこに仏法（ぶつぱう）は楔（くさび）を打ちます。「あなたの知つている『死』は本当の『死』なのか」と。確かに私たちが知つている「死」は、「二人称の死」であり、「三人称の死」です。決して「一人称の死」を体験できませんから、「本当の死」は知りません。「本当の死」を知らないのに、「死」を分かったことにして考えているやつて「死」への固定観念を解体し続けて下さるはたらきこそが、仏法の底力です。



みつけた！

真宗大谷派

因遠寺住職（東京都）



（法務員／島田）

東本願寺出版『今日の言葉2024』の11月に、坊守が寄稿しております。お読みになりたい方は正法寺にありますのでお尋ねください。



おおむら子ども食堂さんとのコラボにて、子ども食堂他、夏休み宿題フォローなどの活動を続けています。お米の寄付など随時受け付けています。どうぞよろしくお願ひいたします。



たくさんの
お初穂のお供え
ありがとうございました！



お内仏にお供えし、
一年を通して
法要等にて大切に
いただきます。

真宗・入門

ろうそく
いろいろな蠟燭



棒型の和蠟燭(赤)



碇型の和蠟燭(赤と白)

洋蠟燭(白)

棒型の和蠟燭(白)

ハゼの実が原料の和蠟燭
は真っ白ではありません。



しんしゅうおおたには
正法寺は真宗大谷派の寺院です



一般家庭のお内仏に見られる金灯籠(※)



蠟燭を使用しない
平常時は木蠟燭を
お飾りします。



(文責／法務員 谷)

写真のように蠟燭には和蠟燭と洋蠟燭があり、また和蠟燭はない、つまり眞実に暗く、眞実ではないものにとらわれる身)を照らす仏の智慧の光を表していると言われています。

碇型と棒型の二種類があります。真宗大谷派では碇型の和蠟燭を用いるのが正式とされています。色については、お勤めの内容で使い分けます。大きく分けて、枕勤めから百ヶ日までは白色、それ以外は赤色を用いるのが正式とされていますが、白色で代用することも可能です。蠟燭を用意する際に心がけておきましょう。

灯明は単に照明ということではなく、私たちの無明(明かりがない、つまり眞実に暗く、眞実ではないものにとらわれる身)を照らす仏の智慧の光を表していると言われています。

お内仏の莊嚴(お飾り)を知ろう!



住職が語る『正信偈』 第23回



天親菩薩論註解

天親菩薩論註解
往還回向由他力
正定之因唯信心
報土因果顯誓願

中国において非常に高名な僧侶であった曇鸞大師ですが、自らの病気をきっかけとして仏道の歩みから逸れて、不老長寿を求めるという迷いの道に陥ってしまいます。そのような中、インド菩提流支三蔵に出遇うことによってようやく自らの迷いに気づき、長寿を実現するためには苦労して手に入れた仙人の經典を焼き払うこととなるのです。その曇鸞大師の迷いを晴らすきっかけとなつた菩提流支三蔵ですが、どのようなお仕事をされていたかというとインドの言葉で書かれてゐる經典を中國語に翻訳するという訳経僧をされました。三蔵法師というのは訳経僧をされている方の尊称です。經藏・律藏・論藏の三つで三蔵ですが、教えが書かれた經典、仏教の規則である律が書かれた書物、經典を注釈した論文のですべてに精通しているから翻訳作業まで可能だというのです。

その菩提流支三蔵ですが、七高僧の一人であるインドの天親菩薩が書かれた『淨土論』を中國語に翻訳された方です。そして曇鸞大師が、その注釈書をお作りになります。それが「天親菩薩論註解」という部分です。「曇鸞大師は天親菩薩の『淨土論』を注釈されました」とあります。この天親菩薩の『淨土論』を注釈した書物を

『淨土論註』といいます。ではそのことをあきらかにしてくださつたのか。そのことがこれから語られていくのです。

まずは「報土因果顯誓願」と説かれます。「阿弥陀仏の淨土の因も果も、全てのものを救いたいとの阿弥陀仏の誓願によるものであると曇鸞大師は顯された」ということです。阿弥陀仏が全てのものを救おうとの殊勝の願をおこされた。その願いの報いとして生まれた世界が、報土とよばれる阿弥陀仏の淨土です。阿弥陀の淨土が建立される原因も、建立されたという結果も、阿弥陀の誓願からもたらされたものです。また、本来凡夫である我々は報土に往生するということは不可能です。しかし往生できなはずの我々が阿弥陀仏の誓願不思議によつて報土へと生まれていく、その原因も結果も阿弥陀仏の誓願のはたらきによるものであると曇鸞大師は顕かにしてくださつたのです。

つづいて「往還回向由他力」とあります。「往相と還相の二種の回向は他力に由るものである」というのです。往相というのは往く相(すがた)といふことです。淨土に往生するということです。また還相は還(かえ)る相(すがた)といふことです。淨土に生まれて仏となつたものが、今度は迷つているものを救うために穢土に還つてゆくといふことです。また、回向といふのは回し向けるということです。本来自分のやつた努力の結果は自分自身

に返つてくるはずです。結果の方向は自分の方を向いているはずです。これを180度回転させて、相手に回し向けるというのが回向ということです。これさて、淨土に生まれ往くということは私たちがどんなに努力しても不可能なことです。また淨土に生まれないのだから、淨土から還るということもおこりません。ですから阿弥陀仏が私たちの代わりに功德を積み、その成果を私たちに差し向けてくださる。それはたらきによつてはじめて我々は淨土に生まれることができます。それを阿弥陀仏の誓願のはたらきである他力に由ると教えてくださいましたのです。最後に「正定之因唯信心」と説かれます。「正しく仏となることが確定する原因は、ただ信心による」ということです。正定というものは仏となることが正しく定まるということです。間違いなく仏となることが決まっているということです。それは全てのものを救おうという阿弥陀仏の誓願をただ信じるということによつておこってきます。